

## 6. 参考資料

### 6.1 ロジックモデルに関する解説

#### 6.1.1 ロジックモデルとは

事業が成果を上げるために必要な要素を体系的に図示化したものを「ロジックモデル」と言う（学習支援事業の例を図 6-1 に示す）。



図 6-1 ロジックモデルの例（学習支援事業）

出典) 内閣府委託「社会的インパクト評価の普及促進に係る調査」社会的インパクト評価実践研修 ロジック・モデル作成の手引き、2017年1月、PwC あらた有限責任監査法人

このロジックモデルを活用し、直接の結果や初期成果、中間成果などより成果指標を設定して効果測定を行うのが社会的インパクト評価である。

#### 6.1.2 ロジックモデルの活用事例および効果

前年度調査では、平成 29 年度調査で作成した評価ツールセット（ロジックモデル、成果指標、測定方法）を用いた対外的な説明による資金調達や団体の事業改善にどのように役立ったのかについて現地ヒアリング調査を行っている<sup>25</sup>。以下では組織外においても効果的な活用を行っている NPO 等について紹介する。前年度調査にて作成した各団体のロジックモデルも合わせて掲載する。

##### (1) 一般社団法人 SAVE TAKATA（岩手県）

###### ①組織内の活用状況・効果

- 事務局長として、ロジックモデルを作成したことでたくさんある事業の振り返りが出来、頭の整理ができたことが一番大きかったと述べている。
- ロジックモデルを含む評価ツールセットは理事間でも共有し、中期事業計画（3 か年）の検討などにおいて参考になっている。

###### ②組織外の活用状況・効果

- 自治体や財団等の助成への応募書類に評価ツールセットを用いることはまだしてい

<sup>25</sup> 東日本大震災の被災地における NPO 等による復興・被災者支援の推進に関する調査  
<https://www5.cao.go.jp/keizai2/keizai-syakai/kizunaryoku/chosa.html>

ない。これまでの応募では、一部の事業に特化した内容であったためである。

## (2) 認定特定非営利活動法人いわて子育てネット（岩手県）

### ①組織内の活用状況・効果

- 理事など経営層のレベルで評価ツールセットを共有している。また、スタッフとも同様に共有している。事業の成果はもちろん全体の可視化となりわかりやすく、事業の構成チェックや新規企画などの検討でロジックモデルを活用している。

### ②組織外の活用状況・効果

- 現在4件の助成に応募しているが、そのうちプレゼンをする必要がある案件があり、そこで評価ツールセットを用いて説明する意向である。
- 今後応募する助成についても、評価ツールセットを活用する意向である。
- 資金繰りが苦しいことから、近く地元の信金に融資をお願いに行く予定であり、その時に評価ツールセットを用いて説明する意向である。

## (3) 特定非営利活動法人移動支援 Rera（宮城県）

### ①組織内の活用状況・効果

- スタッフ間で評価ツールセットを共有した。また、経営トップとしても、今後の事業を考えていく上で整理しやすくなった。

### ②組織外の活用状況・効果

- 最近申請した一般財団法人トヨタ・モビリティ基金では、ロジックモデル等を記載できる申請箇所がなかったため明示的には活用していないが、検討にあたっては作成した評価ツールセットの内容を踏まえている。

## (4) 一般社団法人まなびの森（宮城県）

### ①組織内の活用状況・効果

- スタッフ間で評価ツールセットを共有した。各スタッフは持ち場については詳しいが、全体については詳細にわかっていなかったため、俯瞰することが出来たと述べている。
- 代表本人としても、コンセンサスを得られやすくなったと感じるとともに、今後の事業を考えていく上で整理しやすくなったと述べている。特に、人的リソースの配置を考える上で良い素材となったようである。
- 震災から10年を一つの区切りと考えた場合、これまで補助金等により拡大してきた事業フレームを整理していく必要があると述べている。例えば、宮城県の心のケアハウス事業は、元々は平成26～27年に自主事業として行っていたものを宮城県の方に主体を移したものである。したがって、将来的には中学校日中補助は、自治体が本来やるべき事項として認識され、まなびの森としては関与しなくなることもありうるとしている。
- 何に価値を置くか、優先順位付けをしていくことが重要であり、ロジックモデルを含

むツールセットはそのための優良なツールであると述べている。

- 中期の事業計画を検討しているところだが、事業の整理・縮小がスコープにあり、主要スタッフともコンセンサスがとれていると述べている。

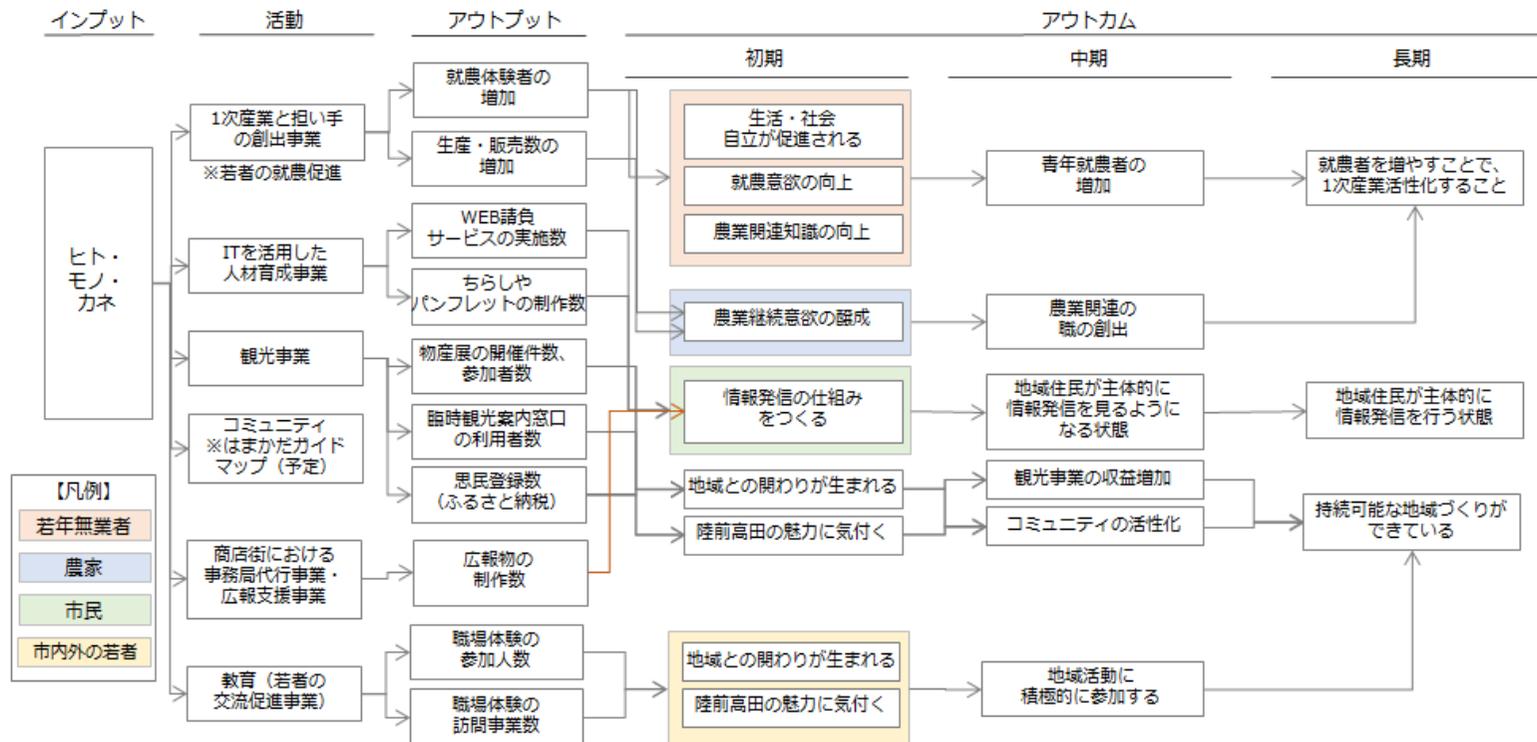
## ②組織外の活用状況・効果

- 山元町からの助成事業の報告会で説明にロジックモデルを使った。報告会参加者からは、わかりやすかったとの反応があった。昨年 11 月の県研修会での中間報告会でもロジックモデルを使って事業等の説明をした。
- 民間の助成金に 2 件応募している最中だが、うち 1 件ではロジックモデルの一部を記載して説明している。また、もう 1 件は 2019 年 2 月頃に訪問ヒアリングを受ける予定で、その時にはロジックモデルを見せながら説明する予定であると述べている。
- 文科省の緊急スクールカウンセラー事業などは、お金が手元に来るのは事業期間の後段になってからなので、つなぎ融資として、日本政策金融公庫にお願いした時にロジックモデルを使って事業等の説明をした。

# 一般社団法人SAVE TAKATAのロジックモデル（案）

対象事業	ICT事業、教育事業、観光事業（法人Value：地域課題を解決する仕組みをつくる）
活動分野	事業者支援（広報物制作、事務局代行、販売代行）、教育機関支援（授業支援、課外活動支援）
受益者	①陸前高田の若年無業者、②陸前高田の農家等、③陸前高田市民、④陸前高田外の住民、⑤小中高大学生
事業目的	陸前高田にある地域課題を解決し、日本の未来を創ることに貢献をすること。

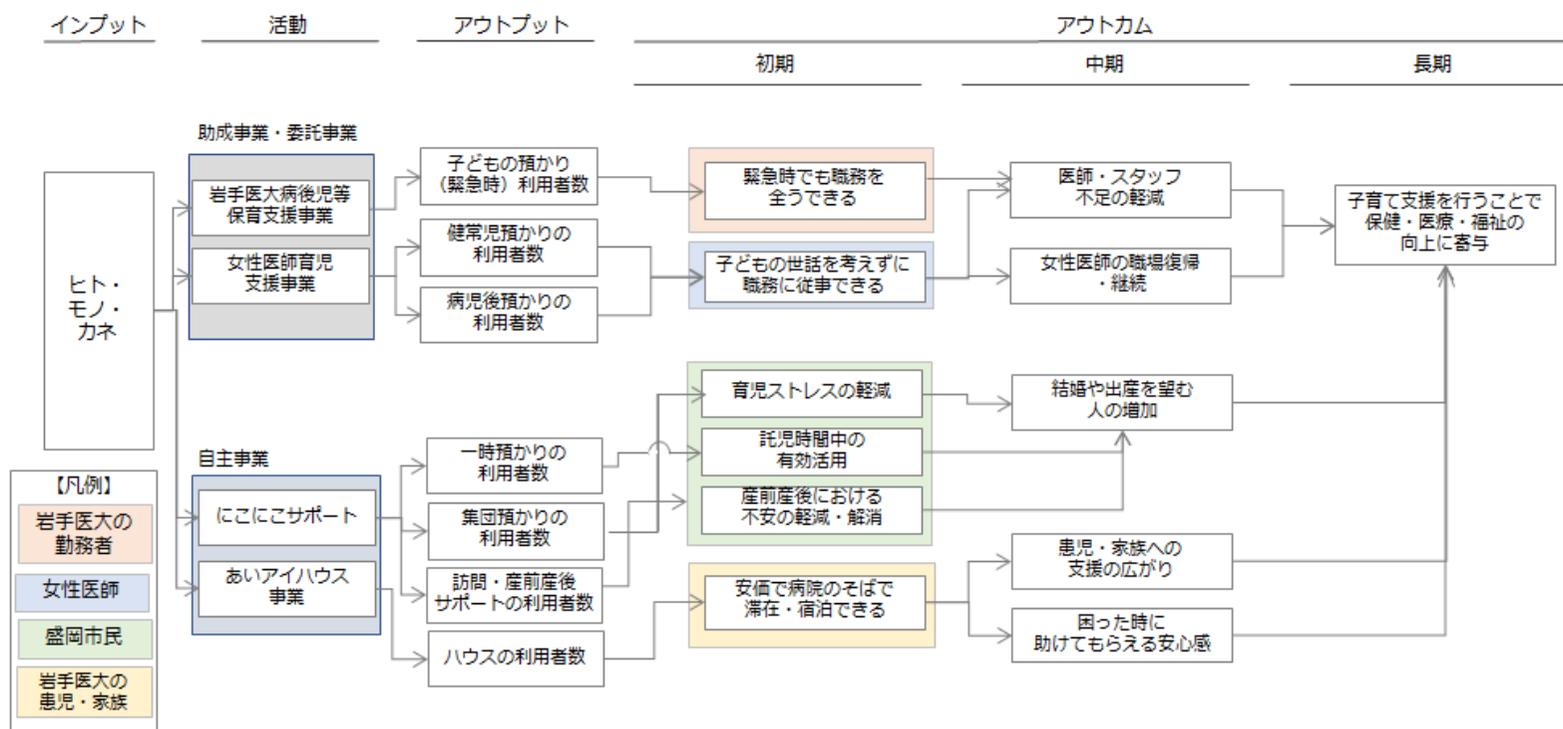
## ロジックモデル案



## 認定NPO法人いわて子育てネットのロジックモデル①（案）

対象事業	岩手医大病後児等保育支援事業、女性医師育児支援事業など
活動分野	①保健・医療・福祉、②子どもの健全育成 ※本ロジックモデルでは①のみ記載。
受益者	①岩手医大の勤務者・患児とその家族、②女性医師、③盛岡市民
事業目的	地域社会に対して、子育てに関する全般の業務を行い、子育て環境の向上に寄与する。

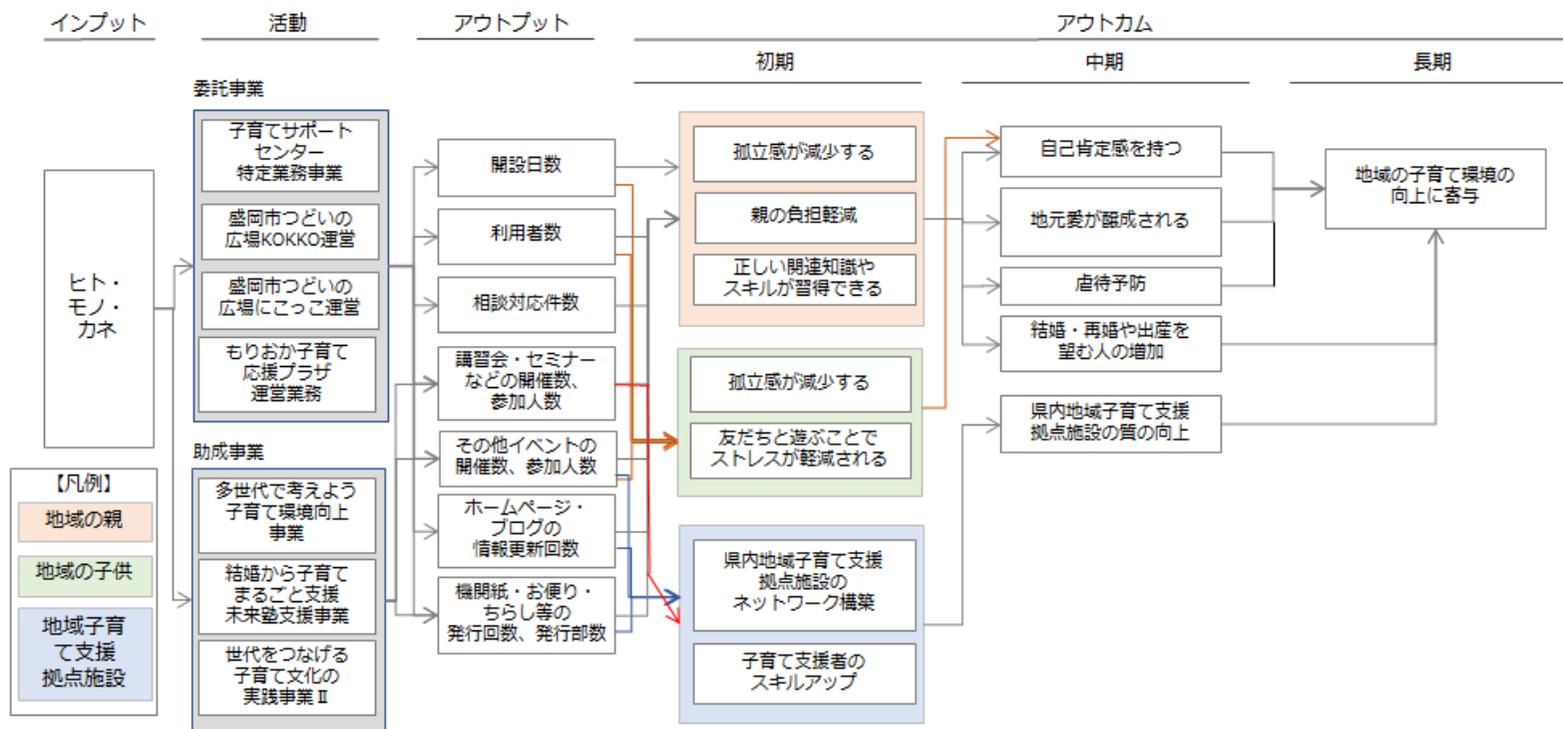
### ロジックモデル案



## 認定NPO法人いわて子育てネットのロジックモデル②（案）

<b>対象事業</b>	子育てサポートセンター特定業務事業、盛岡市つどいの広場にっこなど
<b>活動分野</b>	①保健・医療・福祉、②子どもの健全育成 ※本ロジックモデルでは②のみ記載。
<b>受益者</b>	岩手県民・盛岡市民・子育て支援者
<b>事業目的</b>	地域社会に対して、子育てに関する全般の業務を行い、子育て環境の向上に寄与する。

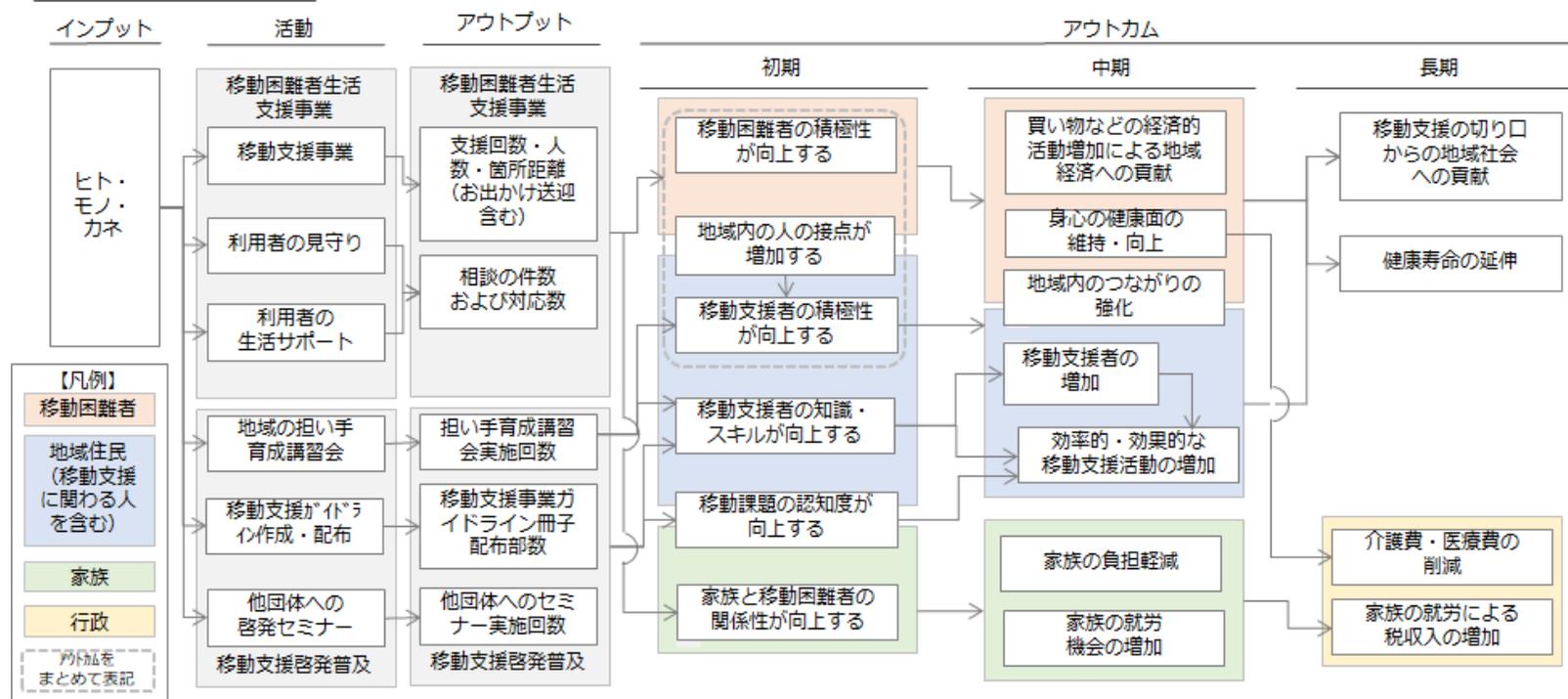
### ロジックモデル案



## 特定非営利活動法人移動支援Reraのロジックモデル（案）

対象事業	石巻圏内における移動支援事業・普及啓発事業など
活動分野	生活支援、心のケア、見守り
受益者	①石巻圏内における移動困難者とその家族、②行政、③移動支援者
事業目的	社会（特に地方における）の移動課題の解決

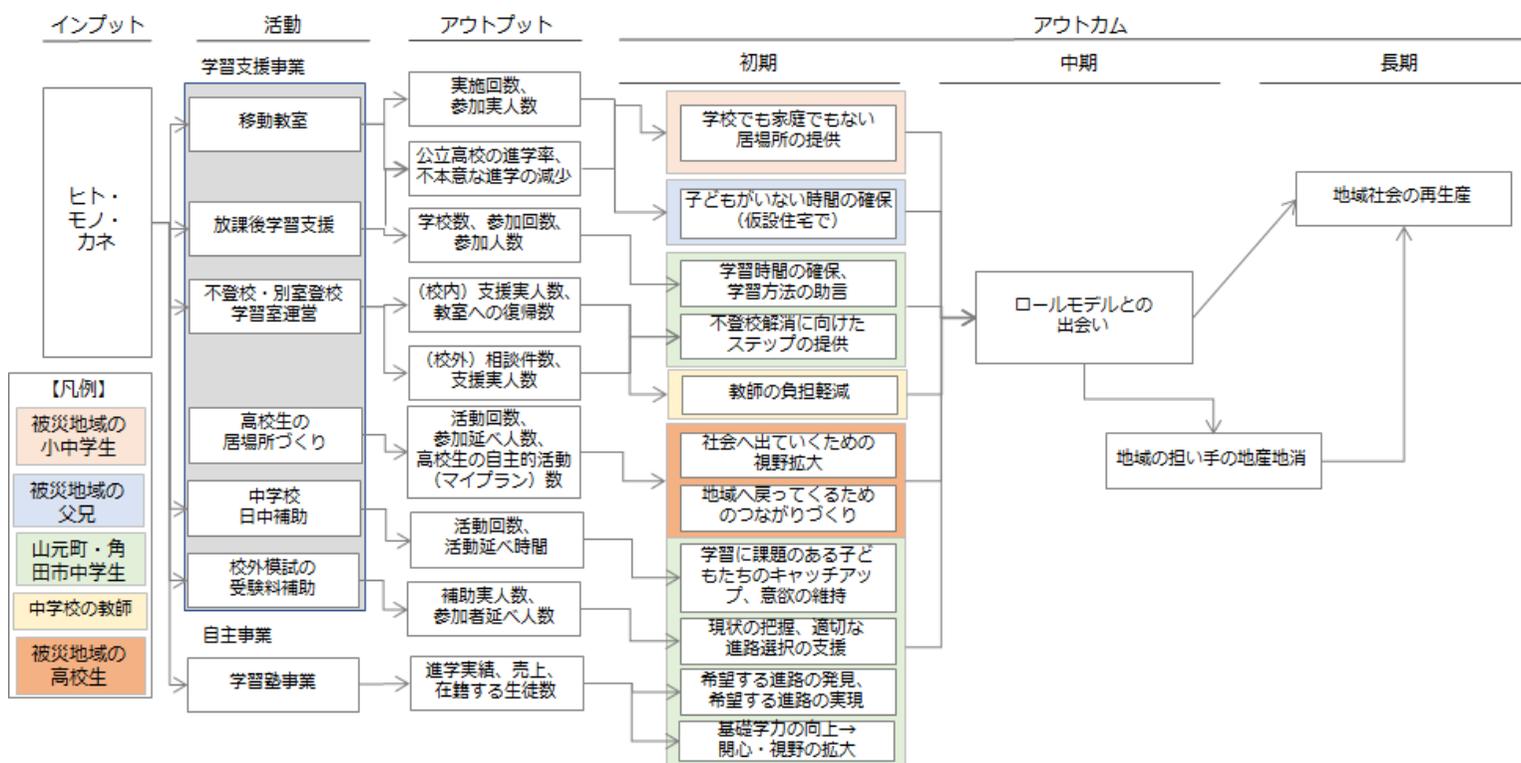
### ロジックモデル案



## 一般社団法人まなびの森のロジックモデル（案）

対象事業	宮城県沿岸南部の不登校の児童生徒を支援する事業など
活動分野	子どもの健全育成
受益者	①被災地域の小中学生、父兄（山元町）②山元町・角田市の中中学生 ③中学校の教師 ④被災地域の高校生
事業目的	子どもたちの成長と機会の確保に資する活動を通して、地域社会の再生に貢献する。

### ロジックモデル案



### 6.1.3 ロジックモデルの作成を応募条件としている国内の助成プログラム例

本調査では取り上げなかったが、ロジックモデルの作成を応募条件としている国内の助成プログラム（過去を含む）の事例としては、国内助成プログラム（公益財団法人トヨタ財団）が挙げられる。以下では概要を記載する。

#### (1) 国内助成プログラム（公益財団法人トヨタ財団）<sup>26</sup>

##### ■国内助成プログラムの概要

「未来の担い手と創造する持続可能なコミュニティー 地域に開かれた仕事づくりを通じてー」を基本テーマとし、プロジェクト実施に向けた調査活動の支援を目的とする「しらべる助成」と、プロジェクト支援（事業支援）を目的とする「そだてる助成」の二つの領域を設定している。助成総額は1億1千万円。

##### ①しらべる助成

取り組む課題の現状把握やその課題が発生している背景や要因の把握など、事業実施に向けて必要な調査、戦略立案、関係構築、パイロット事業の実施などを目的としたプロジェクトへの助成を実施。

##### ②そだてる助成

課題の問題構造（背景や要因）を踏まえたうえで、その課題の解決に向けて有効と考える事業を、必要と思われる仲間、組織、関係者とともに立ち上げて実施する取り組み、ならびにそうした事業の担い手となる人材の参加を促進する仕組みづくりを通じて、人材の育成を目指すプロジェクトへの助成を実施。

本プログラムは、地域課題の解決に向け、多様な地域内外の方々の参加や関わりを促進する“仕組みづくり”や“仕事（しごと）づくり”を通じ、地域の担い手となる人材の育成を目指す一連の活動に対し支援を行う。

具体的には下記の視点を持ったプロジェクトを対象としている。

- 地域性：暮らしの場、働く場である「地域」を対象とした取組 ※ただし行政区での制限は設定していない。
- 次世代育成：次世代の参加や育成を意識している取組
- 協働：（課題の解決に向けて）多様な関係者との協働を意識している取組
- 参加性：プロセスに多様な市民が参加・参画し、役割を發揮できる仕組みがある。もしくは作ろうとしている取組
- 当事者性：支援、被支援の関係性を越えた関係構築、多様な人々の当事者性を育もうとしている取組
- 課題解決指向：明確な課題把握と解決に向けた具体的な目標設定のある取組

##### ①しらべる助成

<sup>26</sup> 国内助成プログラム <https://www.toyotafound.or.jp/community/2018/>

■助成金額：上限 100 万円

■対象となる組織：運営の中心となる組織の法人格の有無・種類は問わない。

■対象となる活動

- 地域課題の現状やその課題が起きている問題構造（背景・要因など）の把握をめざす調査活動
- 成果のとりまとめ、発信（冊子の作成、報告会の実施など
- （事業化に向けた）ステークホルダーとの関係構築
- （本格的な事業化に向けた）パイロット事業の実施と検証

■研修会等への参加

助成対象者は、トヨタ自動車㈱等の協力を得て実施しているトヨタ NPO カレッジ「カイケツ」を優先的に受講することができる。

※トヨタ NPO カレッジ「カイケツ」：NPO など非営利団体にトヨタの組織マネジメント『問題解決』を学んでもらう連続講座で、2018 年度は全 5 回連続講座＋成果報告会を行っている。

■応募書類

ロジックモデルの作成は義務付けていない。プロジェクトの目的や、課題の現状と将来予測、明らかにしたいこと（調査目的）、調査内容、調査終了後の計画、調査結果の配信、実施体制などを記載する。

■選考基準

- 【調査仮説の妥当性】調査で明らかにしようとしている仮説が説得的であるか
- 【調査手法の妥当性】調査仮説に対して、調査手法が適切であるか
- 【調査の実現可能性】調査体制、スケジュール、予算が適切であるか
- 【事業化の実現可能性】調査結果を踏まえ、事業化への道筋が具体的に描けているか

■助成期間終了後の展開

「しらべる助成」の助成期間中に調査結果を踏まえて企画されたプロジェクトを、翌年度の「そだてる助成」へ応募できる。

②そだてる助成

■助成金額：実施内容と申請額に基づき、選考委員会で決定された金額

※過去 3 年間の実績平均 1 プロジェクトあたり 519 万円／2 年

■対象となるプロジェクト

- 地域の多様な担い手の地域・社会参加、役割発揮を促進する仕組み・仕事づくり
- 地域の多様な担い手と地域課題の解決に取り組む仕組み・仕事づくり

■研修会等への参加

助成対象者は、トヨタ自動車㈱等の協力を得て実施しているトヨタ NPO カレッジ「カイ

ケツ」を優先的に受講することができる。

#### ■応募書類

2016年度においては、以下の項目を記載することになっていた。

- プロジェクトの目的
- ロジックモデル ※図 6-2 に示すようなサンプルを掲載している。
- プロジェクトを通じて解決したい地域課題
- 短期の成果目標
- 主な活動 ※ロジックモデルに記載したアウトプットごとに、実施内容の詳細を記入。
- 実施体制、伴走者、他組織との連携
- 経歴と活動実績、これまでの取組、代表者のメッセージ
- 活動スケジュール ※ロジックモデルに記載した主な活動ごとに記入。
- プロジェクト予算
- 当該プロジェクトに投入される財源および当該プロジェクトから発生する事業収入
- 助成期間終了後の計画

2017年度も同様にロジックモデルの作成を義務付けていたが、応募団体が作成したロジックモデルはクオリティの点で問題があり、実行委員のメンバーからも問題視された（アウトプットとアウトカムの理解がなされていない、成果指標も適切でない等々）ことから、2018年度はロジックモデルの要素の中で重要な項目を個別に記載させる形を採用している。

2018年度における応募書類の構成は下記のとおりである。

- プロジェクトの目的
- プロジェクトを通じて解決したい地域課題の現状と関連する取組
- プロジェクトを通じて解決したい地域課題の背景（問題構造の把握）
- プロジェクトでの取組、実施内容
- 短期・中長期の成果目標 ※短期の成果目標については、プロジェクト期間中に最も起こしたい「変化」について、成果を測るための指標、実施前の現状と実施後の定量的な目標などを具体的に記入することとしている。
- 助成期間終了後の計画
- 実施体制、協力者・伴走者
- 活動実績
- プロジェクトの実施体制・関係図
- プロジェクト代表者のメッセージ
- 活動スケジュール
- プロジェクト予算
- 当該プロジェクトに投入される財源および当該プロジェクトから発生する事業収入

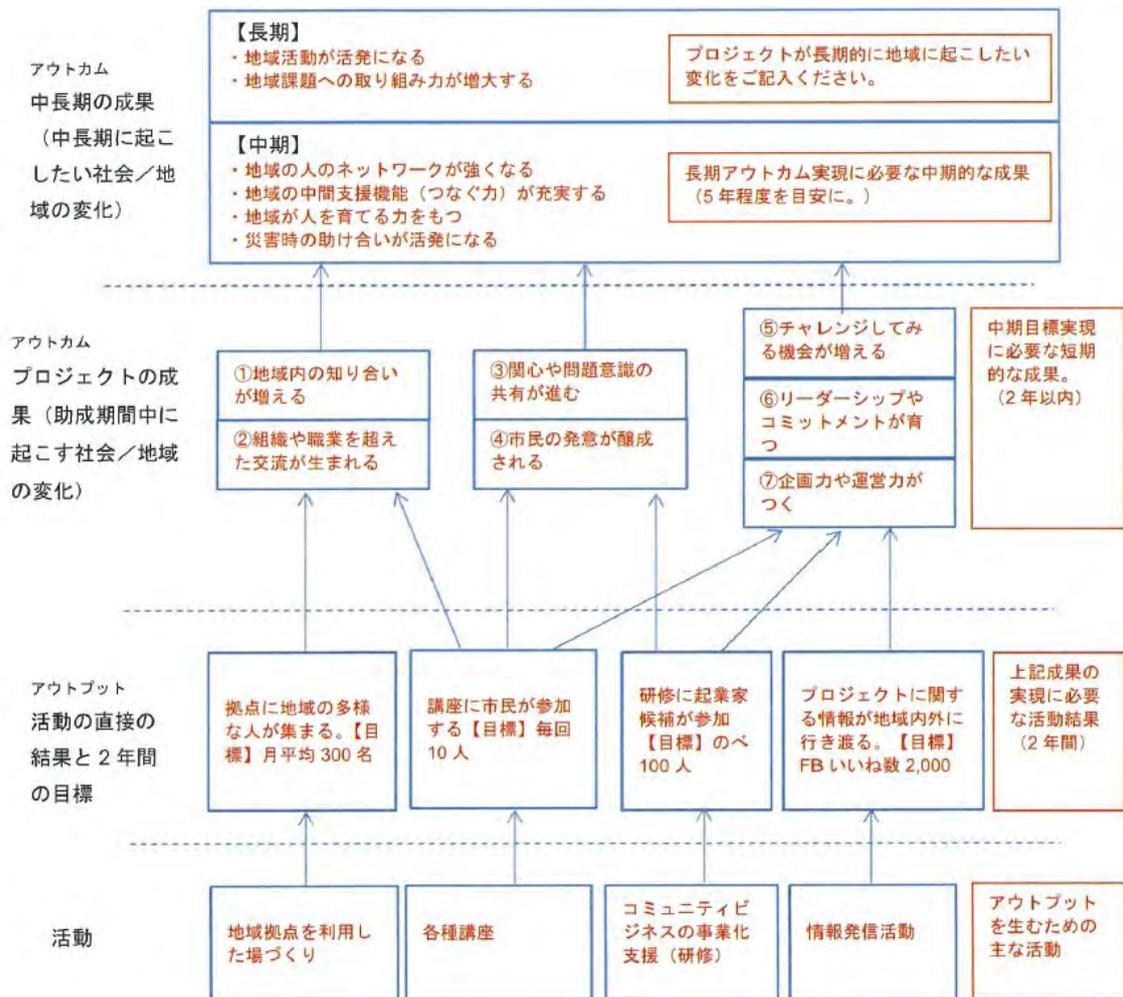


図 6-2 ロジックモデルのサンプル

出典) トヨタ財団：2016年度国内助成プログラム<そだてる助成>企画書作成の手引き

■ 選考基準

- 【事業の妥当性】地域課題の問題構造の把握が十分に行われており、実施内容が解決したい課題に対して妥当であるか
- 【実現可能性】推進体制、ネットワーク、スケジュール、予算が適切か、成果目標が明確か
- 【継続性】助成終了後の計画が具体的に想定されているか
- 【波及効果】プロジェクトの成果が地域を超えて課題の解決につながる事が期待できるか
- 【運動性・変革性】社会の新しい価値の創造、仕組みづくりに寄与するか